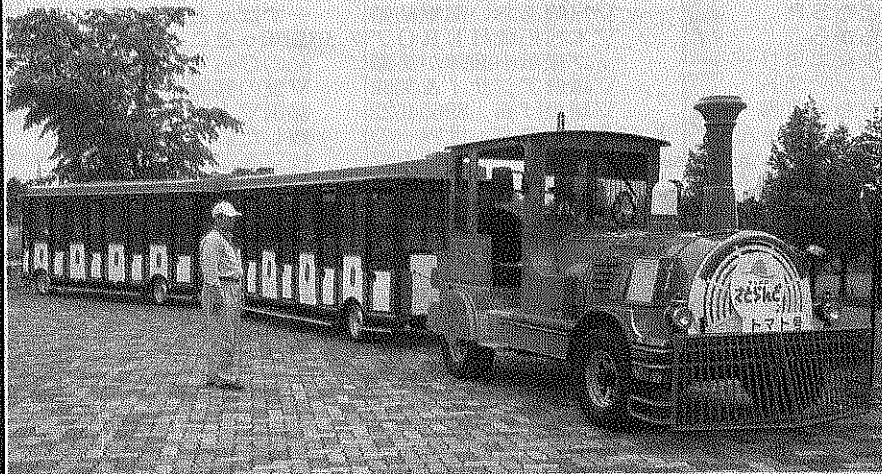


廃食用油を利用バイオディーゼルの

2007-6-16(土)
7月からBDFを使って運転する「サッポロさとらんど」のSLバス

公用車が来月発進

札幌市は七月から、てんぷら油など使用済みの食用油を回収してつくるバイオディーゼル燃料(BDF)を、ごみ収集車などの公用車に活用する。昨年十月から始めたBDF化事業が好調で、「(燃料として)一定量が確保できる」と判断した。道内でBDFを公用車に活用している自治体はまだわずかだ。札幌市の試みはBDF利用拡大への弾みとなりそうだ。



家庭から回収好調

廃食用油からできるBDFは、ディーゼルエンジン車にそのまま使用でき、排ガスから有害な硫黄酸化物がほとんど出ない。このため、市は「大気汚染防止に効果があるBDFを公用車に使うことで、環境へ配慮する姿勢をアピールできる」と判断し、導入を決めた。

BDFは七月初めから、ごみ収集車七台とサッポロさとらんどのSLバス二台に活用。収集車は十月末まで、バスは十一月三日まで使用し、車両性能への影響やコストなどを検証する。

市は昨年十月から廃食用油のBDF化事業をスタート。当初、九カ所だった廃食用油の回収拠点はその後増え続け、六月十五日現在四十三カ所、七月二日からは計五十一カ所になる見通しだ。

札幌市

ごみ収集車、SLバス

回収拠点が増えたことに伴い、回収量も順調に推移。市民からも「食用油は捨てる時の処理が面倒だったので、受け入れてもらえるようになって良かった」と評判は上々で、今年に入ってから見ながら、公用車への通年利用や、車両数の拡大を検討していく。

札幌市の取り組みにより、廃食用油を活用する動きはさらに加速しそうだ。

「やファミリーレストランなど身近な施設を回収が、国内ではまだ少なく、拠点にしたことで、制度道内でも旭川市など数例が浸透した」(環境局)のみ。このうち旭川市では、二〇〇四年度から六年度までの累計回収量は七千五百十九リットルで、試験的に活用している。ただ、石狩市も本年度は、一八年度の夏期間、ごみ収集車一台にBDFを試験的に活用している。

エコ燃料加速